

(特別支援学校版「学力向上実行プラン」様式)

令和3年度 池田支援学校美馬分校「学力向上実行プラン」

池田支援学校美馬分校 学校長 喜馬久典

1 学力向上検討委員会構成

学 力 向 上 検 討 委 員		
	職名・校務等担当名	氏名
管理職	校長 教頭	喜馬久典 野崎明美
学力向上推進員	教諭 高等部長	佐藤玲子
委員	教諭 教育総務課長 教諭 学校生活課長 教諭 総合支援課長	長尾裕子 宮本小百合 岡田祐介

2 学力・学習状況における現状分析、目標等

【3つの視点】

- (1)基礎的・基本的な知識・技能の習得
- (2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成
- (3)主体的に学習に取り組む態度の育成

(高等部) 生徒の状況		
よさ	作業学習(委託作業)において、評価記録表に課題目標を明記し、自己評価・教員評価を行うことで、客観的な視点で自分を見ることができるようになってきた。	課題 新1年生をはじめ、2・3年生もまだ自分をネガティブにとらえ、過小評価する生徒が多い。課題の解決方法を考える力を伸ばし、自分を客観的にとらえて頑張っていること・できていることにも注目させ、自己肯定感を高めさせたい。
具体的目標(目指す子どもの姿)	成果指標	達成状況
各作業学習での課題と目標を自分で設定し、自分の力を客観的にとらえて評価し、目標に向かって主体的に努力することができる。	①各作業学習において、年2回以上、自分の課題と目標を考える時間を設定する。 ②生徒が立てた目標について、学年末の自己評価が高くなっている割合が80%以上となる。	①個別の指導計画設定時(前後期)に、これまでの作業学習の振り返りを基に生徒面談を実施し、新たな目標設定を行った。 ②毎時間終了時に、自己評価・教員評価を実施し、教員とともに振り返りを行った。生徒の学年末の自己評価が高くなった・もしくは高い評価が続いた割合が87.9%であった。 ----- 評価 B
具体的方策(教員の取組)	取組指標	取組状況
①各作業学習の評価方法・評価記録表の様式を統一し、生徒・教員共に目標や達成状況を情報共有していく。 ②ポジティブな行動支援を取り入れた生徒への関わり方を踏まえ、学習環境を整えていく。	①各作業学習の統一した評価表をもとに、担当教員間で指導方針を検討し、個別の指導計画に反映させる。 ②生徒参加型のポジティブな行動支援に関する研修会を行い、自信を持たせる指導法を学び、実践する。	①評価表の記入方法を統一することで、教員間で目標の共有ができ、毎時間の評価もわかりやすくなった。 ②香川大学の坂井先生による生徒参加型のコンサルテーションを実施した。教員の助言に対し生徒がどう感じているのか、「みまカフェ」で身につけさせたい資質や能力を再確認するなど、教員の取り組み方を御教授いただき、評価の段階を工夫するなど改善を行った。
* 中間期の見直し		
達成状況を踏まえた改善事項		
教員と生徒と一緒に立てた目標をもとに自己評価することで、生徒の主体的な学習活動を導くことができた。生徒が評価しやすい評価表の改善や生徒の実態に合わせた作業学習の内容を精選し、次年度も続けて自己肯定感の向上を目指していくものとする。		